

次のそれぞれの問題の \_\_\_\_\_ または ( ) の中に入れるものとしてその正しい読み方、漢字の表記、或いは最も適当なものを、(イ) ~ (ニ)の中から一つ選び、記号で答えよ。(2%×50)

- (1) リュックサックを背なかに負って一人で旅行をしているうちに、路に踏み迷って山の中で日が暮れてしまいました。  
(イ) りょこう (ロ) りょうこう (ハ) りょうこ (ニ) りょこ
- (2) 飛行機の搭乗手続きは出発約 30 分前から始まるので、利用する便名の表示がある搭乗待合室に入って待機しましょう。  
(イ) しゅっぱつ (ロ) しゅつぱつ  
(ハ) しゅつぱつ (ニ) しゅつぱつ
- (3) 米国・ハーバード大学の研究者がこのほど、短時間の朝寝坊は昼間の学習活動にとってプラスになることを発見した。  
(イ) ちょうねぼう (ロ) ちょうしんぼう  
(ハ) あさねぼう (ニ) あさしんぼう
- (4) 正しい勉強のやり方を身につければ、受験勉強は将来に役に立つ経験になります。  
(イ) じゅっけんべんきょう (ロ) じゅけんべんきよ  
(ハ) じゅけんべんきょう (ニ) じゅっけんべんきょう
- (5) この表で現在の蛇口のタイプが簡単にご確認いただけます。蛇口交換の際は、現在設置されている蛇口と同じタイプの商品をご注文下さい。  
(イ) へびぐち (ロ) へびぐち (ハ) じゃくち (ニ) じゃぐち
- (6) 家族が多いのに、きゅうりょうが少なくて困っています。  
(イ) 給量 (ロ) 休寮 (ハ) 給料 (ニ) 休料
- (7) 学校のこうどうは体育館などと兼用となっていることも多い。  
(イ) 公道 (ロ) 行動 (ハ) 講堂 (ニ) 弘道
- (8) 昔、ある村に、ははとさんになんの子とが住んでおりました。ははがさんになんの子にるすばんをさせて、寺参りに出かけた後で、山姥がははに化けてかえってきました。  
(イ) 守留 (ロ) 留守 (ハ) 留巢 (ニ) 巢留

見背面

- (9) 東照宮の「眠り猫」は、ねむっているねこのちようこくで、左甚五郎がほったといわれています。
- (イ) 徴刻 (ロ) 超鵠 (ハ) 長国 (ニ) 彫刻
- (10) できレースとは、「でき合いのレース」の略で、最初から勝敗が決まっているしょうぶの事。
- (イ) 出気 (ロ) 出来 (ハ) 出機 (ニ) 出軌
- (11) 夜12時\_\_\_\_\_過ぎたら、電話しません。
- (イ) を (ロ) が (ハ) に (ニ) と
- (12) 木村さん\_\_\_\_\_赤ちゃんが生まれたのを知っていますか。
- (イ) か (ロ) が (ハ) に (ニ) で
- (13) この服は、紙\_\_\_\_\_作られています。
- (イ) から (ロ) を (ハ) に (ニ) で
- (14) 日曜の昼過ぎ、僕は電車に揺られていた。真夏の暑さが厳しい外とは正反対の冷房の効いた車内。吊革\_\_\_\_\_つかまってぼんやりと外を見てみると、見慣れた景色が目の前を過ぎ去っていく。
- (イ) で (ロ) を (ハ) が (ニ) に
- (15) この間、四川省\_\_\_\_\_大きな地震がありました。被害が大きかったらしい。
- (イ) で (ロ) を (ハ) が (ニ) に
- (16) 子供は、みんなアイスクリーム\_\_\_\_\_食べたがっています。
- (イ) で (ロ) を (ハ) が (ニ) に
- (17) インターネットで簡単スピーディ、出発当日\_\_\_\_\_海外旅行保険にご加入いただけます!
- (イ) までに (ロ) だけに (ハ) まで (ニ) から
- (18) JCBカードが、「こんな場面\_\_\_\_\_使える!」といった便利な情報をご紹介します。
- (イ) でも (ロ) だけ (ハ) しか (ニ) ばかり
- (19) こんなことは、あなた\_\_\_\_\_頼めません。
- (イ) さえにしか (ロ) までにだけ  
(ハ) しかにだけ (ニ) だけにしか

接次頁

- (20) 昨日おそくまで起きていました。\_\_\_\_\_今日は授業中眠くて困りました。  
これからは、こういうことのないように早く寝ます。
- (イ) それに (ロ) それで (ハ) そして (ニ) それから
- (21) 「そう、自分自身の命を、日記の中に彫りつけて行くんですよ」「わかりました。わたくし、今日からおっしゃるように日記をつけます。小父さまとお会いした記念に」「わたしに会った記念に？弘子さんはやさしいことを( )ね」
- (イ) 言ってくれます (ロ) 言ってやります  
(ハ) 言ってもらいます (ニ) 言ってもらえます
- (22) 「何かご用？」弘子が声をかけると、男の子はてれたように笑い、近づいてきた。「あのね、これね。今日締切だけれどさ。いま持ってきても、間に合うの？」「間に合うわよ。おねえちゃんが( )わね」「うーん。だけれどさ、ぼくにあたるかなあ」男の子は不安そうである。望遠鏡が当たる番組なのだ。
- (イ) あずかってくれる (ロ) あずかってあげる  
(ハ) あずかってもらう (ニ) あずかってもらえる
- (23) 「そのことはまあゆっくり考えてみて」と妻は言った。「ところで猫は戻ってきた？」そう言われて、朝から猫のことをすっかり忘れていたことに気づいた。「いや、まだ戻ってきてない」「ちょっと近所を( )？いなくなってもう一週間以上になるのよ」ぼくは生返事をして、受話器をまた左手に移しかえた。
- (イ) 探してみてください (ロ) 探してみよあげる  
(ハ) 探してみてもらう (ニ) 探してみよやれる
- (24) 「何を持って行くんです？」「タオルケットですよ。玄関に置いてありますからね」隣の部屋から勝江の声がした。「じゃ、栄介、行ってこよう」洋吉が立ち上ると、「ぼく一人で行けますよ。子供じゃあるまいし」「いや、お父さんはお父さんで挨拶をしておくよ」「ばかばかしい」栄介は吐き捨てるように言い、それでも洋吉の後に従った。「商品券にでもするといいいんですよ」ぶつぶつと栄介は文句を言った。自分の快気祝いを

見背面

- 親に ( )、何の文句があるのかと、洋吉はむっとした。
- (イ) 用意してくれて (ロ) 用意してあげて  
(ハ) 用意してもらって (ニ) 用意してやってくれて
- (25) それから彼女は自分の生活のことを話した。彼女のお姉さんも彼女もしばらくのあいだアパート暮らしになじめなかった。何故ならそれは彼女たちのそれまでの人生に比べてあまりにも楽だったからだ。自分たちは誰かの看病をしたり、店を手伝ったりしながら毎日忙しく送ることに馴れてしまっていたのだ、と緑は言った。「苦労性の姉妹だね」と僕は笑って言った。「これまでが過酷すぎたのよ」と緑は言った。「でもいいの。私たち、その分をこれから先でしっかり ( ) の」
- (イ) とり戻してくれる (ロ) とり戻してやる  
(ハ) とり戻してもらおう (ニ) とり戻してやってもらおう
- (26) 「大きくなったらデパートの食堂に一人できて食べたいものをいっぱい ( ) と思ったの、子供の頃」と緑は言った。
- (イ) 食べてやろう (ロ) 食べてくれよう  
(ハ) 食べてもらおう (ニ) 食べさせてやろう
- (27) その日曜日の午後に緑の家のすぐ近所で火事があって、僕らは三階の物干しにのぼってそれを見物していた。「大事なものがあつたらまとめて、ここは避難した方がいいみたいだな」と僕は緑に言った。「大丈夫よ。私逃げないもの」「ここが燃えても?」「ええ」と緑は言った。「死んだってかまわないもの。一緒に ( ) の?」「まさか。危なくなったら僕は逃げるよ」
- (イ) 死んでやる (ロ) 死んでもらう  
(ハ) 死んでくれる (ニ) 死なせてやろう
- (28) 陽子は時々さびしくなった。(どんな事情があつて、私の親は人手に私をやってしまったのだろう) そう考えると、どんなに一生懸命に生きてみても、その自分を ( ) 人はいないように思えた。
- (イ) 愛してくれる (ロ) 愛してやる  
(ハ) 愛させる (ニ) 愛してもらおう
- (29) 「オーケー。じゃあ今度迎えに行くわ。家はどこだっけ?」「ちょっと説

接次頁

明しくいんだけどね、この路地をずっと行って、道なりに何度か曲がると左手に赤いホンダ・シビックが（ ）家がある。その一軒先がうちなんだけど」

- (イ) 停めている (ロ) 停まってある  
(ハ) 停めてある (ニ) 停まっている

(30) 僕は体を起こして笠原の顔を見た。「どうして水がないのだろうね。涸れてしまったのかな、それともだれかが埋めたのかな」彼女は肩をすくめた。「もし（ ）、全部埋めちゃうもんじゃないの。こんな風中途半端に穴だけ残しておいたって意味ないし、誰かが落ちたりしたら危ないじゃない。そう思わない？」

- (イ) 埋めれば (ロ) 埋めたら  
(ハ) 埋めると (ニ) 埋めたのなら

(31) いくら空き家とはいえ他人の家の敷地に勝手に足を踏み入れることは、法律に反した行為だ。もし近所の人や空き家の中にいる僕の姿を見かけ、怪しんで警察に（ ）、警官がすぐにやってきて僕を尋問するにちがいない。

- (イ) 通報していたら (ロ) 通報するなら  
(ハ) 通報すれば (ニ) 通報していると

(32) 私は暇さえあれば金庫を磨くことに熱中する。鋼鉄製だが、外側は銀張りなのだ。ためつすがめつ眺め、少しでも曇りを（ ）、柔らかい布で擦る。それにつれて、金庫の表面は輝きを増し、私の姿を映しはじめ、私は悦に入る。

- (イ) みつければ (ロ) みつけると  
(ハ) みつけるなら (ニ) みつけたら

(33) 「——許せない！」と美奈子はバーのカウンターを力一杯叩いた。思いのほか大きな音がして、自分でもびっくりしている。「カウンター、壊さないでね」と、店のママが苦笑した。「（ ）、谷川課長へ請求して。あいつのせいなんだから」

- (イ) 壊れれば (ロ) 壊れたら (ハ) 壊れると (ニ) 壊れるなら

(34) 僕は玄関に行って、棚から茶色の革靴を取り出し、靴べらを使ってそれ

見背面

- を履いた。靴には白いほこりがうすく ( )。
- (イ) 積もってあった (ロ) 積もっていた。  
(ハ) 積もっておいた (ニ) 積もらせてしまった
- (35) 母親の方は東京の山の手で何の不足もなく育った高級官僚の娘であった。ぼくの見た限りでは、彼女は自分の目に見える範囲を越えた物事についてはどのような意見も ( )。それ以上の広い世界に対して自分の意見を持つ必要がある折には、彼女はいつも夫の意見を借用した。
- (イ) 持っていなかった (ロ) 持っておかなかった  
(ハ) 持ってしまうなかった (ニ) 持ってみなかったら
- (36) 「ねえ、あなた失業していたのよね？まだ失業してるの？」と笠原は言った。「まだしてる」「真面目に働く ( ) はあるの？」「あるよ、でも自分の言ったことにだんだん自信が持てなくなってきた。「わからない」と僕は言いなおした。
- (イ) つもり (ロ) 予定 (ハ) 希望 (ニ) 構え
- (37) 二人は屋上から下りる階段の方へと歩いて行った。「――頬の傷、痛みます？」と、美奈子は訊いた。「うん、少しね。( ) せいかな」と、望月は頬のキズテープにそっと手をやる。
- (イ) 北風が吹いた (ロ) 北風に吹かれた  
(ハ) 北風が吹かせた (ニ) 北風を吹いた
- (38) 「先生。何だか ( ) においがしますね。腹が減ってきた。どんな現象でしょうか」助手は思わず、ゼリー状の物質に手を伸ばしかけた。それを見て、学者はあわてて声をかけた。「待て。軽々しく触るな。どんな物質か分からないのだ。長い棒を持ってきて、そっとかきとってみろ」
- (イ) うまそうな (ロ) うまいらしい  
(ハ) うまいそうな (ニ) うまいように
- (39) カメラの前では彼はむしろ寡黙に振舞った。挑発には乗らず、相手に喋りたいただけ ( )、最後に相手の言い分を一言で引っ繰り返した。にこやかな顔で、穏やかな声で、相手の背中に致命的なひと突きを与えるこつを彼は会得していた。

接次頁

- (イ) 喋らせてしまって (ロ) 喋らせていて  
(ハ) 喋らせてあって (ニ) 喋らせておいて
- (40) 「うまくいきましたね。しかし、まだ先があります」「やめるな。科学とはこんな時に使うためにあるんだぞ。最新の技術を全部やってみろ」たしかにその通りだった。なぞを未解決のまま ( ) ことは、文明の退歩を認めることだ。
- (イ) ほっておく (ロ) ほっている  
(ハ) ほってしまう (ニ) ほってある
- (41) 夏枝の席の後ろでも、「落ちついたお嬢さんね」「ちょっとわれわれには真似もできませんね」などとささやく声がした。夏枝は謝恩会に出る ( ) を取り止めて家へ帰った。陽子が帰ったら、なかなか立派だったと褒めてやらなければならないと思っただけでも、夏枝はみじめだった。
- (イ) つもり (ロ) 予定 (ハ) 予期 (ニ) 心構え
- (42) 「お前、いまどこから電話してるのかね」下宿では、人の耳もあると啓造は気づかった。「どうなさいましたの」いつの間にか、夏枝が後ろに立っていた。啓造は耳につけていた受話器を浮かして、夏枝と二人で ( ) ようにした。
- (イ) 聞けられる (ロ) 聞える (ハ) 聞ける (ニ) 聞こえられる
- (43) 徹はさきほどから、自分の部屋のソファーに寝転んでいた。窓に夕日がさし、見本林のほうから郭公の声がしきりに ( ) 。七月に入って郭公の声を聞くのは珍しいような気がした。
- (イ) 聞きられる (ロ) 聞える (ハ) 聞ける (ニ) 聞えられる
- (44) 「帰りましょうか。降ってきたようですね」村井は、掌に雨を受けながら、空を見上げた。「こちらに ( ) 」村井は助手席のドアを開けた。夏枝は一瞬ためらったが、助手席に座った。
- (イ) お乗りになりますか (ロ) お乗りになりましょうか  
(ハ) お乗りになりませんか (ニ) お乗りになりましょう
- (45) 「——どうした？疲れてるようだな」と野本は声をかけた。「いえ、別に」と裕子は首を振った。「無理をするなよ」野本は裕子の肩を叩くと、「君

見背面

はほとんど休みを取ってないだろう。少し、休暇をとって旅行（ ）  
したらどうだ？」と言った。裕子の表情は一瞬こわばった。

(イ) へ (ロ) に (ハ) が (ニ) でも

(46) 私はほとんど全財産を注ぎ込んで、豪華極まる大金庫を作った。ばかな  
ことをするやつだ、と言うやつもある。だが、そんな連中だって、これ  
とあまり大差ない。自動車を買って、今までの倍の時間を掛けて通勤し、  
（ ）者。時間にルーズなくせに舶来の高級時計を身につける者。  
私の場合だってそれと同じだ。

(イ) 得意する (ロ) 得意している (ハ) 得意な (ニ) 得意がる

(47) 三年前に彼は一冊の分厚い本を書き上げて発表した。僕も手に取って読  
んでみたのだが、正直に言ってさっぱり理解できなかった。（ ）  
にも、文章そのものが読解できなかったのだ。

(イ) 読み進む (ロ) 読み進もう

(ハ) 読み進み (ニ) 読み進みたい

(48) 日本という国は構造的には民主国家ではあるけれど、同時にそれは熾烈  
な弱肉強食の階級社会であり、エリートにならないければ、この国で生き  
ている意味などほとんど何もない。だから人は一段でも上の梯子に  
（ ）。それはきわめて健全な欲望なのだ。ぼくは義父のそのよう  
な意見に対して特に何の感想も言わなかった。

(イ) 上ろうとする (ロ) 上るつもりだ

(ハ) 上る予定だ (ニ) 上ろう

(49) 父親は彼が大学を卒業した（ ）役人になるか、あるいはどこかの  
大きな企業に入ることを期待していたのだが、彼は大学に残って学者に  
なる道を選んだ。

(イ) あと (ロ) あとに (ハ) あとへ (ニ) あとか

(50) 一難去ってまた一難。オオカミへの発作が起こらなければ、今度はヘビ  
とくる。なにはともあれ、ヘビだけはごめんだ。次の満月の夜のことを  
思うと、（ ）。

(イ) 身震いをする (ロ) 身震いがする

(ハ) 身震いになる (ニ) 身震いにする